

当院の杉原院長が週刊新潮の『注目の名医』で取り上げられました。



杉原健一（スギハラ・ケンイチ）東京大学医学部卒。国立がんセンター医長、東京医科歯科大学腫瘍外科教授、日本外科学会理事、日本消化器外科学会理事長を歴任。東京医科歯科大学特任教授、大腸癌研究会会長。

東大病院、国立がんセンター、東京医科歯科大学で、大腸がんの最先端治療を行ってきた名医が、地域医療を担う病院長に就任した。豊富な知識と経験を活かし、今までは違った地域病院でがん治療のあり方を確立する、杉原健一医師の思いとは。

注目の名医 17
●スペシャルインタビュー

Special Interview

15 医療
ルネサンス

地域の特性に合う形で提供する高度ながん医療

『光仁会 第一病院』

東京●葛飾区東金町
社会医療法人社団
光仁会 第一病院 院長

すぎはら けんいち
杉原 健一 医師

CLINIC data
社会医療法人社団光仁会第一病院
<http://www.daiichi.or.jp/>
診療時間◆<午前>受付 8:00～
診療 9:00～12:00<午後>受付
3:50～ 診療 4:00～7:00*各科
ごとに診療時間が異なります。
ホームページの診療カレンダーを
ご覧ください。(休診/土曜午後、
日曜、祝日、年末年始) 所在地◆
〒125-0041 東京都葛飾区東金町
4-2-10 アクセス◆JR常磐線金町駅
北口徒歩 8 分
電話◆03-3607-0007
※東京都指定二次救急医療機関

「(一)葛飾の病院に来て、最初に大きな違いを感じたのは、患者さんの年齢でした。今までは私がいた都心の病院に来る患者さんは、おかしな言い方ですが、そこまで診察に来られる若さや体力がまだある方たちだった。しかし地元の病院に来る方の多くは、電車に乗って病院に通うのがつらいご年配の方や、認知症になつていて、介助の方が遠くの医者へ連れて行くのが大変という方々。また糖尿病など、他の病気を併存している方も多く、がん治療のガイドラインどおりの治療を行うのが難しい。知識や経験を応用し、今までは違う形で、その方に最善の治療方針を立てなければいけません」

例えば併存している病気の治療との兼ね合いを考え、どのタイミングで手術を行うか。術後のケアは本人もしくは家族が出来るか。ケアが難しいようなら、デイサービスの内容もアレンジするなど、地域医療では患者ひとりひとりの状況に即した、きめ細かな対応が必要となる。ただ単にがんを

治療するだけでなく、患者の生活の質(QOL)の向上まで考えて、治療法を選択肢を増やす。「高齢の患者さんやそのご家族の中には、もう歳だから、寝たきりだから、認知症だから、手術をしても仕方がないと考える方もいます。しかし、適切な治療で、痛みや苦しみは大幅に緩和できる。手術や抗がん剤治療も、ぜひ選択肢として考えてほしい」

杉原医師のように豊富な経験と高いスキルを持った医師が地域にいれば、地元で安心して高度な医療が受けられる。今後はさらに最先端のがん治療の取り入れ方を考え、地域医療のレベルアップを図っていくという。「どんな年齢でも早期発見、早期治療に勝つのはありません。どんなに仕事に忙しくても、1日休んで検診に行つたことであらうと、仕事の損失は大したことではありませぬ。がんを見逃すことこそ、大きな損失です。特に50代以降の方は大腸がんの検診を積極的に受けましょう。人生を楽しむコツは健康であることなのですから」

